

建設省土木研究所	正会員	松浦	茂樹
同	上	正会員	谷本 光司
同	上		神庭 治司
河川開発調査会	正会員	石崎	正和

## はじめに

昭和59年7月の湖沼法の国会成立に象徴されるように、湖沼への関心が近年傾に高まっている。それに先立ち建設省では昭和56年12月、河川審議会より「河川環境管理のあり方について」の答申が出され、「河川環境の保全と創造」を適正に行う管理が強く打ち出された。湖沼もその対象であり、各湖沼で環境管理基本計画の検討が始まっている。その中で湖岸植生が持つ湖沼景観への役割が注目され、一部では風致形成に資するよう植付けが行われている。本報告は湖岸植生が景観要素としてどのように評価されているのか、霞ヶ浦を対象に検討したものである。なお湖岸植生といっても主に水生植物を対象とする。

## 1. 研究の方法

景観は、人々が好きあるいは嫌い、また快い、不快というように、心情で評価されるものである。文学作品あるいは絵画はこの心情を外在化したものであり、文学作品、絵画を分析する中で、人々の評価状況が明らかになると考える。この考えより文学作品・絵画でどのように湖岸植生が取扱われているのかを検討する。

## 2. 文学作品・絵画に表われる湖岸植生

霞ヶ浦(西浦)は我国第二位の湖面積171km<sup>2</sup>を持ち、海がすぐそばにある海跡湖である(図-1)。湖の周辺には標高約40m程度の台地がみられるが高い山はなく、遠くに筑波山、はるかに遠くに富士山が望まれるのみである。平面的に広大な拡りを持つが、高低差は非常に小さいというのが特徴である。霞ヶ浦を風景として見る場合、湖岸に景勝地が分布するために視点はいずれも低く、広漠とした水面をいかに引締めるのが景観の魅力をつくり出すポイントである。昭和25年に選定された茨城百景の中で選定されたのは、浮島、麻生、天王崎のように地形が変化したり奥行を感じさせるところである。

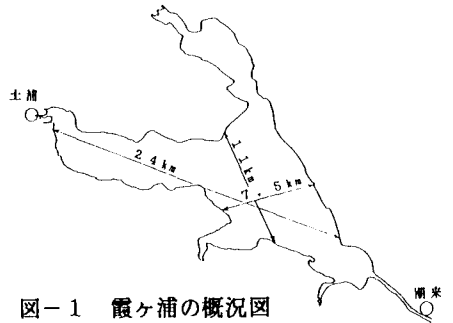


図-1 霞ヶ浦の概況図

表-1に見るように、霞ヶ浦を題材とした和歌11首、俳句14句、短歌68首、小説・随筆5編、音頭・小唄の民謡13曲をもとに、その中に詠まれている景観の素材の出現回数を調べた。これらの景観の素材は霞ヶ浦の風景の特徴を述べているために使われており、肯定的に取り扱われている。なお小説・随筆は風景について、かなりのスペースをさいて記述されているところを抽出して分析した。取り上げた小説・随筆は表-2に示す。

表-1より、霞ヶ浦の景観を構成する素材で最も多く取り上げられているのは湖面に浮かぶ船であり、それに続くのが葦を中心とした水生植物であることがわかる。それに続いて筑波山等の地点、湖の中の魚、水鳥、続いて湖岸の樹木である。湖岸植生が霞ヶ浦の景観の中で大きな位置を占めていることがこれにより理解される。

絵画としては江戸時代中期に描かれた葛飾北斎の「富 36景」の一つ、「常州牛堀」で検討しよう。(絵-1)。この絵は、36景の中でも最も西にあたる霞ヶ浦の牛堀からの展望である。牛堀は茨城百景の一つ、「水郷牛堀」として選ばれた景勝地であり、湖上遙かに筑波山や富士山が眺められる。北斎は霞ヶ浦を航行する苦舟と湖岸の松を大胆な構図で前景に置き、中景には水鳥が飛び、荻が茂り、民家の屋根が望める水辺

風景を配し、そして遠景にはデフォルメされた富士を描いている。なお、前景の苫舟はその構造や積荷、船頭達の生活の様子などが細かく描かれており、米のとぎ汁を湖面に捨てている姿は当時の水上生活者と霞ヶ浦の関係を示している点で注目される。

米をといだり炊事や飲用の水は、霞ヶ浦の水が使われたのであろう。

3. 湖沼景観の素材としての湖岸植生  
2章で検討したように広々とした霞ヶ浦を描くには、茫漠感をなくす素材が重要な役割を占めており、それが富士であり、湖岸植生であり、舟である。これら以外にも水鳥、筑波山が取り上げられている。

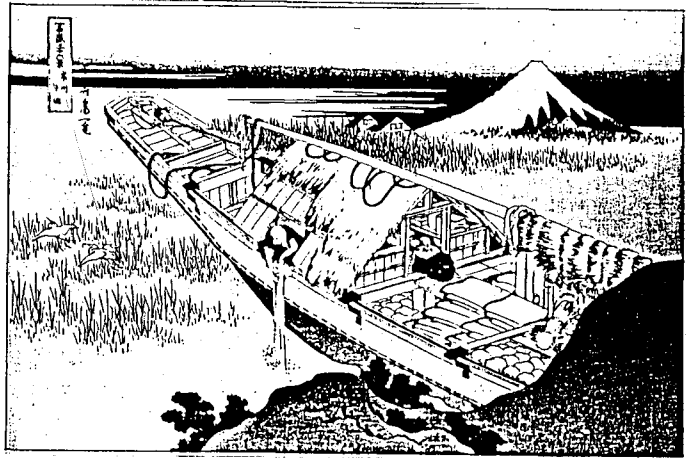
北斎の絵では水生植物は中景に描かれているが、その位置からして近景としても重要であろう。高須敬二の描いた天王崎公園によると、松の木、船とともに水生植物は近景として取り扱われている。このように湖岸植生は、近景、中景として景観において役割を有している。

また植生は、緑を中心とした色彩をもっている。霞ヶ浦の景観を色調からみるならば、湖面の青、そこに点在する船の帆や白鷺の白、筑波山の紫、そして植生の緑ということになる。しかも植生は季節によりその色彩が変化し、移りゆく季節を感じさせる。

他の植生と異なる湖岸植生の特徴は操作性のあることである。つまり富士、筑波山は人間の手によって動かすことはできない。舟、水鳥、魚は移動するもので人々の意のままにならない。ところが水生植物、松のような陸上植物はある程度人間の操作が可能である。この特徴のため湖沼景観の創造において、湖岸植生は重要な役割を有している。

表-1 霞ヶ浦の風景を構成する素材

項目	和歌・俳句	短歌	小説・随筆	民謡	合計	
水上	舟	6	11	5	13	35
湖岸植生	葦	1	5	4		10
	ガマ	2		1	1	4
	真菰	2		1		3
	ハス	2				2
	ヒシ	2				2
	ウキクサ	2				2
並木	松	1		1	4	6
	ボブラ		1			1
魚	白魚		1		5	6
	公魚		1	1	4	6
	山女				1	1
水鳥	白鷺		5			5
	鴨		5			5
	よしきり		1	2	1	4
	鳩鳥	1	1	1	1	4
色	柴		1	3	1	5
	青		1	2		3
地点	筑波	2		2	4	8
	浮島	1		2	3	6
	麻生			2		2
	天王崎			1	1	2
	潮来				1	1
	高須				1	1



絵-1 常州牛堀

表-2 取りあげた小説・随筆

小説 随筆	佐賀純一「霞ヶ浦水村譚(第二部志戸崎風景)、赤松宗旦「利根川図志」、 添田知道「利根川随歩」、飯島博「利根川」、「常陸国風土記」
----------	---

参考文献 : 松浦・谷本・神庭; 環境からみた植生湖岸計画とその評価, 土研資料